



Title	GLOCOLブックレット11 はじめに
Author(s)	住村, 欣範
Citation	GLOCOLブックレット. 2013, 11, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/48326
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

はじめに

住村欣範 大阪大学グローバルコラボレーションセンター准教授

このブックレットは、2012年8月に行われた、GLOCOL海外フィールドスタディ「メコン」(実施地:ベトナム/メコンデルタ)、「生態環境と水資源」(実施地:中国/雲南)、「食と健康環境」(実施地:ベトナム、タイ)におけるフィールドスタディの報告をまとめたものである。この3つのプログラムは、参加した大学院生が現地を調査を行いつつ、そのプロセスと成果をそれぞれの研究に結びつける点で共通しており、その点で「フィールドスタディ」と呼ぶにふさわしい内容をもっている。

GLOCOLでは、2011年度に海外体験型教育企画オフィス(FIELDO)が設置される以前から、他部局と連携した大学院生向けのフィールドスタディを行っているが、「メコン」は2012年度に初めて実施されたプログラムである。ベトナムのメコンデルタに位置する基幹大学であるカントー大学の短期留学プログラムであるトロピカルセメスターと連携して企画・運営し、メコンデルタにおける「食」「資源」「環境」をフィールドスタディのテーマとした。このプログラムの特徴は、自分の専門分野の研究に対して高い意識を持つ学生の参加を促し、個々の学生が「メコン」に関する個別の研究テーマを持って、カントー大学の専門教員の指導を受け、また、互いに協働しつつ調査を行ったことである。

一方、「生態環境と水資源」は、同じく2012年度に初めて実施されたプログラムであり、雲南(西双版纳)を調査地としている。この「生態環境と水資源」においても、「メコン」と同じく、現地の中国雲南省財経大学、雲南大学及び雲南政府発展開発研究センターの協力を得て、学生の個別の研究テーマを重視して調査を行った。「メコン」は、このプログラムの直後にベトナムで行われており、一部の学生は、両方のプログラムに参加して、国際河川としてのメコンの上流域と下流域を結びつけ、俯瞰する経験を

したと言える。

最後に、「食と健康環境」は、大阪大学大学院薬学研究科が主体となり、GLOCOLが協力部局として行っていた大学院GP「健康環境リスクマネジメント専門家育成」の海外交流プログラムとして行われていたものを、GLOCOLが海外フィールドスタディとして継承実施したものであり、2012年度が3度目の実施であった。このプログラムは、One World, One Healthという公衆衛生分野で重要になっている概念を具体的な事例を通して理解することを目的として実施された。活動の一部は、GLOCOLが主体となって実施しているSATREPS地球規模課題対応国際科学技術協力「薬剤耐性細菌発生機構の解明と食品管理における耐性菌モニタリングシステムの開発」の研究活動とリンクしており、フィールドスタディは教育だけでなく、研究の推進にも一部貢献したといえる。

これら、3つのプログラムは、いずれも、学生の研究能力の向上、海外における具体的な研究テーマの発見、ないしは、学生がすでに持っている研究テーマの深化を主眼として行われた。そして、2012年9月には、大阪大学大学院薬学研究科において、3つのプログラム合同の成果発表会を行った。

これらの教育プログラムでは、フィールドスタディの過程で得られたネットワークと知見を、新たな研究プロジェクトの構築にも生かしている。実際に、「メコン」および「生態資源と水環境」で構築されたネットワークを通して、2013年1月時点で、「メコン」に関連する研究プロジェクトや研究交流プロジェクトの申請が2つ申請されており、これらの研究プロジェクトが採択された暁には、そのプロセスに、教育的なプログラムをリンクさせる見込みである。

以上のような意味で、このブックレットは、学生の個々のレベルで教育と研究を、また、GLOCOLの組織のレベルでも教育と研究を、「メコン」というひとつの意味にあふれた実践的な場において、リンクさせスパイラルを形成する試みの成果と端緒として位置づけられるものであるといえる。